

第24回
CRCと臨床試験の
あり方を考える会議
2024 in Sapporo

The 24th Conference on CRC and Clinical Trials
2024 in Sapporo

医療と私たちの未来予想図Ⅱ
～ 知の創造 ― 具現化 ― 商業化 Wakkaのごとく～

作者：花巻 蒼矢

会 期：2024年9月15日(日)・16日(月・祝)

会 場：札幌コンベンションセンター

会議代表：佐々木 由紀(北海道大学病院)

主 催：一般財団法人臨床試験支援財団

共 催：一般社団法人 日本臨床薬理学会、一般社団法人 日本臨床薬理学会、一般社団法人 日本臨床薬理学会、
日本製薬工業協会、一般社団法人 日本CRO協会、日本SMO協会

後 援：文部科学省、厚生労働省

運営事務局：株式会社コングレ

〒060-0807 北海道札幌市北区北七条西5-5-3 札幌千代田ビル

電話 011-839-9260 FAX 050-1702-1820 E-mail: crc2024@congre.co.jp



AMED社会共創EXPO提供・ワークショップ1

PPIを語ろう！私たちのそれぞれのPPIを考えませんか

9月15日(日) 9:30～11:30 第6会場札幌コンベンションセンター 2階 204

座長：森山 菜緒(帝京大学医学部附属病院 臨床試験・治験統括センター)

座長：勝井 恵子(AMED 研究開発統括推進室 研究開発企画課 社会共創推進グループ)

概要

あなたは、PPIという言葉からどのような活動をイメージされますか？

製薬企業が治験や臨床試験のプロトコルの作成段階で当該疾患の患者会など対話の機会を設けたり、より分かりやすい説明同意文書をつくるために患者さんや一般市民から意見を聞くといったことは、PPIの取り組みの1つではあるものの、これらに限定されるわけではありません。PPIにはさまざまな形があり、そこに関わる人たちは誰も(社会全体)がステークホルダーであるといえるでしょう。

一方で、CRCをはじめとする医療機関のスタッフや企業で研究開発に関わる人たちは、PPIの取り組みに参加しやすいので、実はそうでもありません。『関わってみたいけれども何をすればよいのか』『どこから手を付ければよいかがわからない』と感じている方も少なくないのではないのでしょうか。

本ワークショップは、CRC、モニター、プロジェクトマネージャー、一般市民、患者など、さまざまな方々が、社会的な位置づけ・組織・役割を超えて集まり、「私たちのPPI」とは何か、考えていることや実践してみたいことなどを、お互いざっくばらんに話すことを目的として企画しました。そのヒントを提供いただく2名の演者もお招きし、併せて座長も自身の経験を少し話題とさせていただけたらと考えています。

一人の市民としてPPIを“自分ごと”としてとらえ、「社会全体でより良い医療サービスの実現に向けて共に取り組む」ために、PPIについて「知る」「考える」「念う」機会を持とうではありませんか。

PPIの活動に決められた手法はありません。バリエーションを恐れず、誰もが自分ごととして行動し、自身もそのメリットを享受できる世界を目指しましょう。

私のPPIと仲間たち：その1～患者会から見たPPIにおける課題と役割について～

演者：若狭好(舘島細胞症患者の会)

私のPPIと仲間たち：その2～どこにでもいる薬剤師が患者会設立に関わったことを振り返る～

演者：森山菜緒(帝京大学医学部附属病院 臨床試験・治験統括センター)

私のPPIと仲間たち：その3～家庭内の患者との対話を通じて見えてきた家族間のPPIの重要性について伝えたい～

演者：岩屋紀子(難病サポートfamiliaやまぐち/医療法人維玉会 大正通りクリニック)

ファシリテーター：小村悠(国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門/医薬品開発推進部門(併任))

ファシリテーター：今野浩一(PMラボ ポジティブ・インテンション)

コメンテーター：筒泉直樹(広島大学/大阪大学)

オーガナイザー：森山菜緒(帝京大学医学部附属病院 臨床試験・治験統括センター)

オーガナイザー：筒泉 直樹(広島大学/大阪大学)

第24回
CRCと臨床試験の
あり方を考える会議

2024 in Sapporo

The 24th Conference on CRC and Clinical Trials
2024 in Sapporo

医療と私たちの未来予想図Ⅱ
〜 知の創造 ― 具現化 ― 商業化 W a k k a のしくみ ―

作者:花巻 蒼矢

会 期: 2024年9月15日(日)・16日(月・祝)

会 場: 札幌コンベンションセンター

会議代表: 佐々木 由紀(北海道大学病院)

主 催: 一般財団法人臨床試験支援財団

共 催: 一般社団法人 日本臨床薬理学会、一般社団法人 日本病院薬剤師会、一般社団法人 日本調剤衛生検査技師会、
日本製薬工業協会、一般社団法人 日本CRO協会、日本SMO協会

後 援: 文部科学省、厚生労働省

運営事務局: 株式会社コングレ

〒060-0807 北海道札幌市北区北七条西5-5-3 札幌千代田ビル

電話 011-839-9260 FAX 050-1702-1820 E-mail: crc2024@congre.co.jp



AMED社会共創EXPO提供・シンポジウム2

資材・機器管理における課題から治験のSDGsを考える

9月15日(日) 10:00~11:30

第2会場札幌コンベンションセンター 1階 大ホールA

座長: 奥田 浩人(岡山大学病院 薬剤部/新医療研究開発センター 治験推進部)

座長: 内田 智広(ノバルティス ファーマ株式会社開発本部スタディ・サイトオペレーションズ開発推進)

概要

CRCの皆さんなら誰も一度は未使用の検査資材を廃棄した経験があるのではないのでしょうか。試験開始時には想像を超える量の検査資材を受け取り、使用期限や在庫管理、発注作業、不要となった検査資材の廃棄作業は全て医療機関側の業務として日常的に行われています。しかし、慢性的な保管場所の不足や入れ替え作業に多くのマンパワーと時間を要するなど、資材管理に関する課題は多く残されているのが現状です。第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議の最優秀演題で、検査資材管理に割く膨大な労力と大量の医療廃棄物について問題提起がなされ、大きな注目を集めたのは皆さんも記憶に新しいのではないのでしょうか。検査資材以外でも医療機関で治験を実施するために、依頼者から医療機器(心電計、タブレット/スマートフォン端末、恒温槽、温度計等)の貸与を受けるケースも少なくありません。それら貸与機器は試験終了後に返却するが、その後は廃棄されず適切に再利用されているのだろうか。今般、廃棄物処理の問題はSDGs(持続可能な開発目標)を掲げる国際社会においても大きな関心事となっており、資材・機器の廃棄物削減は業界をあげて優先的に取り組むべき課題と考えられます。本シンポジウムでは、医療機関、検査会社、治験依頼者のそれぞれの立場からお互いに見えていない現状と課題を共有し、SDGsおよび全体最適化の視点から改善策を検討する機会としたい。廃棄物の課題を次世代に残さないために私たちに何ができるのか皆さんも一緒に考えてみませんか。

医療機関における治験資材管理の現状―それ全部ゴミなんてMOTTAINAI!―

演者: 大野 葉月(国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 研究実施管理部 臨床研究コーディネーター室)

グローバルセントラルラボにおけるSDGsへの取り組み

演者: 堀川 浩一(キュー・スクエアド・ソリューションズ株式会社)

治験依頼者による機器貸与の現状と貸与削減に向けた取り組み

演者: 渡辺 紀代子(グラクソ・スミスクライン株式会社)

パネリスト: 石崎 哲誠(ギリアド・サイエンシズ株式会社クリニカルオペレーションズ)

パネリスト: 久保田 有香(群馬大学医学部附属病院)

オーガナイザー: 奥田 浩人(岡山大学病院 新医療研究開発センター)